

富山LRTにおけるスマートICTを活用したバリュー創生の研究開発

**研究目的**

地方都市において、都心の空洞化を防ぎ、魅力あるまちづくりや都市全体の活力を維持するためには、スマートシティ化(特に交通機関のICT化)が重要である。本研究では、スマートシティを目指す市民インフラとしてのまちなか公共交通機関において、近隣商店や住民が地域情報を情報流通できる仕組みを確立することを目的とする。

**研究開発の概要**

本研究では、以下の2つのテーマに取り組む

①**トラムデジPOPシステムの研究開発**  
 簡便かつタイムリーに周辺店舗からまちなか公共交通機関に情報を発信できる仕組みを持った「トラムデジPOPシステム」を確立する。加えて、車内でしか見られないAR表示技術「トラムAR」を用いることで、そこだけでしか得られない特典とインセンティブを展開し、これまで交通機関を利用しなかった人や県外からの人を取込む。

②**トラムNAVIシステムの研究開発**  
 地域住民が所有する携帯端末にLRTを活用するナビ情報を提供する仕組みを確立する。また、トラムデジPOPシステムと連携し、より効果的に情報流通を行える仕組みを構成し、その効果を検証する。

**期待される研究成果及びその社会的意義**

富山市がLRTの導入や環状化などで過度に車に依存した生活を転換し、CO2削減を進めている取り組みに際して、利用者に対する地域情報の交流という新しいICT要素を取り入れ利便性を高め、コンパクトシティ化を推進できる。また、転用しやすいベストプラクティスとして、同様の問題を抱える他地域へ波及することが期待できる。

